

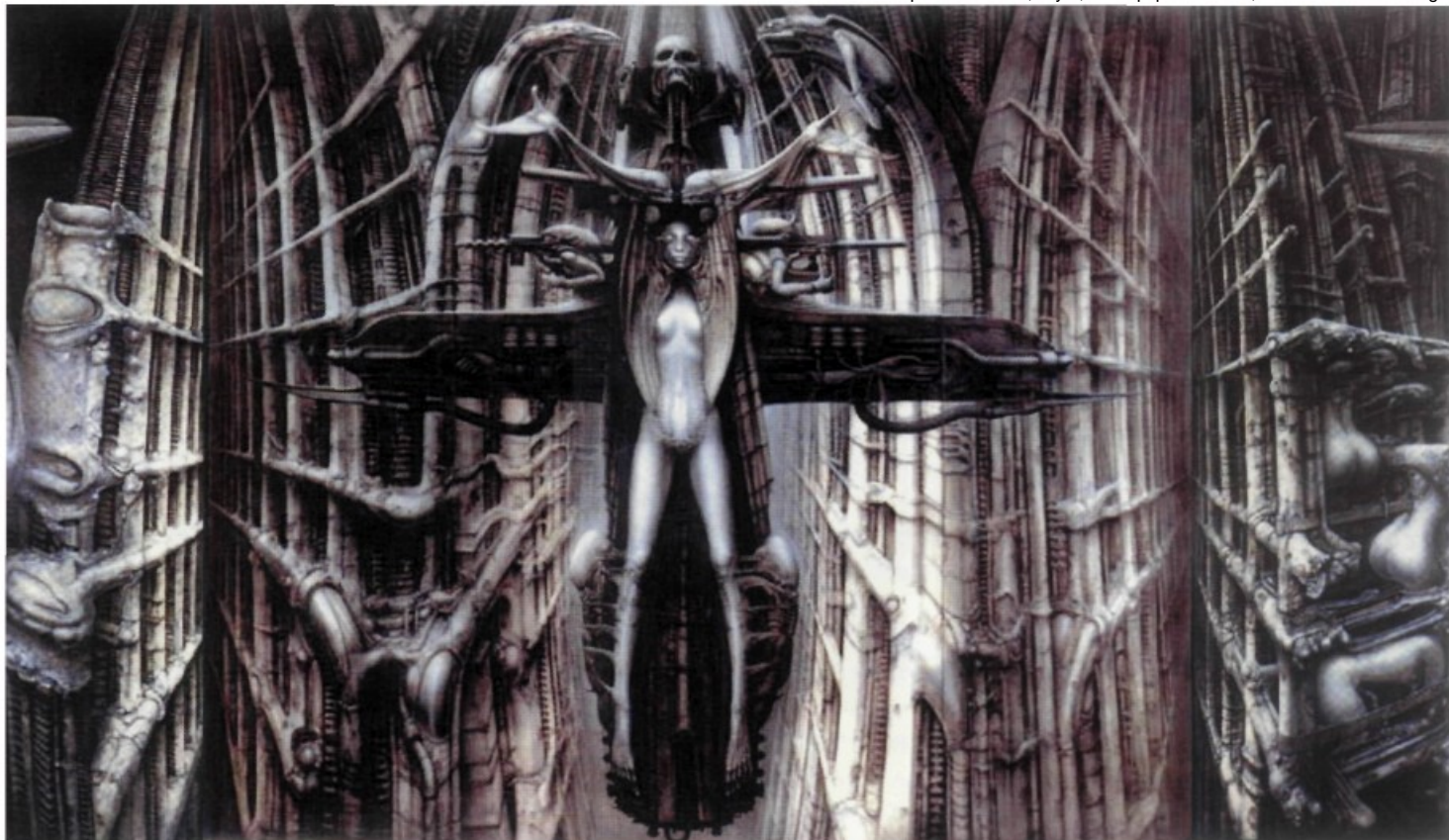
私が選ぶ、スイスのアート

選者=清野栄一 (作家, DJ)



(H.R.ギーガー 『Spell』)

"Spell 1" 1973-74, acrylic, ink on paper on wood, 240 X 280cm © H.R.Giger



エアブラシを用いた暗黒世界のような作風で知られるギーガーが、アルプスの自然に囲まれたスイスで生まれ、創作活動を続けてきたというのは少し意外な気もする。彼の名を世界に知らしめたハリウッド映画、『エイリアン』のイメージが強すぎることもあるのだろう。そのギーガーが故郷の片田舎、チーズの産地としても有名な山里グリュイエールにある築400年の古城を買い取り、自ら改装を施して、自分のコレクションを集めた美術館を造ってしまった。

'70年代のはじめに制作された"Spell"シリーズは、ギーガーの代表作の一つである。ヒューmanoイドの放つエロスとタナトスに、有機的な機械の

メタファーが融合した「バイオメカニクス」のイメージには、ギーガーと親交があったダリに代表されるシュールレアリスティックな「幻視」のみならず、当時隆盛を誇っていたサイケデリック・カルチャーとも通底するものがある。そしてそのイメージは、ロック・ミュージックのレコードジャケットやサイバーパンク小説の表紙などにも繰り返し使われてきた。

建築と工芸からキャリアをスタートさせたギーガーは晩年になって、自分が描いてきたイメージを立体化した家具やジュエリー、そして古城を改装した「館」を造るようになった。そのどこか職人的な気質が、彼の特異な作品を生んだのだと思う。

PROFILE

清野栄一 (せいの えいいち) : 作家/DJ。二十代前半から世界各地を旅しながら小説、旅行記などを執筆。「ロード・ノヴェル」と名付ける。国内外でDJとしても活躍し、レイヴ・パーティー「balearic sunrise」をオーガナイズ。著書に『デッドエンド・スカイ』(河出書房新社) 『RAVE TRAVELLER』(太田出版)など。また長編小説『オール・トゥモロウズ・パーティーズ』(双葉社) 『テクノフォビア』(扶桑社)が年内に刊行予定。

H.R.ギーガー : 1940年2月5日、スイス東部の都市クールに生まれる。建築、工業デザインを学んだ後、'60年代からアーティストとして活動を開始。エアブラシを使った制作方法と出会い、現在のスタイルを確立した。'77年に出版された作品集『Necronomicon』を出版。映画監督リドリー・スコットの目にギーガーの作品がとまり、『エイリアン』が生まれたことはあまりに有名。